

令和7年第1回定例夕張市議会

# 令和7年度 市政執行方針

令和7年3月5日

|                        |    |
|------------------------|----|
| はじめに                   | 1  |
| 1 これからも安心して暮らせるマチを目指して | 2  |
| 2 より良い教育環境を目指して        | 6  |
| 3 いつまでも健やかに生きることを目指して  | 8  |
| 4 市内経済の賑わいを目指して        | 9  |
| 5 財政の再建から新しい時代を目指して    | 10 |
| 令和7年度予算編成にあたって         | 13 |
| むすびに                   | 15 |

令和7年第1回定例市議会の開会にあたり、市政執行における所信と予算の編成方針を申し上げ、市議会並びに市民の皆様のご理解を賜りたいと考えます。

## はじめに

令和6年度を振り返りますと、大きな喜びとともに私の心に刻まれた出来事の一つに、夕張市石炭博物館模擬坑道復旧工事の完成があります。

思い返せば、今から丁度6年前、私が初めて市長に当選する直前の平成31年4月に模擬坑道の火災が発生しました。

現スタッフの誰もが未経験のなかで行った坑道火災の消火活動、鎮火のため坑道に注入した河川水の排出、そして安全対策を万全に施したうえでの復旧方法の検討、実際の復旧工事など、この6年間で様々な試行錯誤と多くの労力を費やしてまいりましたが、その努力が結実し、本年4月によりやく模擬坑道の観覧を含む石炭博物館のフルオープンを迎える運びとなりました。

この間、文化庁、北海道教育委員会、学識経験者の方々など多くの関係者の皆様のご指導・ご助言・ご協力をいただいてまいりました。また、ガバメントクラウドファンディング等により全国の皆様からたくさんの支援も寄せられました。

この場を借りて皆様方に厚く御礼申し上げます。真にありがとうございました。

夕張市石炭博物館は、日本遺産である「炭鉄港」において重要な施設に位置づけされているとともに、市の交流人口拡大の要でもあります。

多くの方々にリニューアル後の石炭博物館をご覧いただき、改め

て炭都夕張の歴史を肌で感じていただきたい、と考えております。

さて、私の2期目の任期も折り返しとなりました。これまで行ってきた様々な施策をかたちあるものにしていく段階に入ったと捉えています。

これから新年度を迎えるにあたり、特に力を入れて進めてまいりたい施策について申し上げ、皆様のご理解を賜りたいと考えます。

## **1 これからも安心して暮らせるマチを目指して**

まずは、これからも安心して暮らせるマチづくりに関する施策がありますが、

最初に、大きな課題となっている「公共交通体系の確保」について、

本市の公共交通は、市内南北軸を結ぶバス路線を中心に、限られた交通資源を活用し、デマンドバス、タクシー乗車代金補助制度などにより、その体系を維持しているところではありますが、利用者の減少、交通事業者の担い手不足による民間路線の減便・路線の廃止など、公共交通を取り巻く環境は、夕張市のみならず全道・全国で年々厳しさを増しております。

こうした中、令和5年10月から運行を始めた『栗山町経由、長沼町まで』の市外線デマンド交通は、民間の市外路線である高速ゆうばり号の廃止に伴い、令和6年10月から1便増便し、1日5往復としたところです。

しかしながら、同年12月、民間路線の大幅減便により、長沼か

ら札幌へ乗り継ぐための待ち時間が長くなるなど、利用者の皆様にはご不便をおかけすることとなりました。

そのような状況の解消に向け、交通事業者などと改めて検討・協議を行い、①市外線デマンドの行き先を北広島駅まで延伸、②1日4往復とすることで再整理いたしました。

利用者の皆様への周知など準備を早急に進め、7年度の早い段階で実施してまいります。

また、岩見沢市を中心市とした南空知定住自立圏形成に向けて策定される共生ビジョンにおいても、地域公共交通の抱える課題を共有し、今後、連携・協力しながら広域的且つ継続的な取組を行ってまいります。

本市の公共交通を取り巻く環境は引き続き厳しい状況が続きますが、今後もできる限り利便性の向上に取り組んでまいるとともに、関係者と協議しながら、将来にわたる市内外の持続可能な公共交通体系の構築を目指してまいります。

次に「市内の情報格差の解消」に向けた取組であります。

市がリアルタイムの情報を発信するのに用いるX(旧 Twitter)に加え、パソコンやスマホをあまり利用されない方でも緊急の情報を取得できるよう、テレビのデータ放送を活用した夕張市の情報提供サービスを令和6年4月に開始したところです。

また、光ファイバー未敷設地域において民間のADSLサービスが終了することとなったため、当該地域において高速回線を導入する際に市から助成する制度を令和6年10月より始め、7年度も継続してまいります。

あわせて、主に高齢者を対象としたスマホ教室を7年度より開催してまいります。

こうした取組により、条件が不利な地域にお住まいの方、高齢の方などでも情報の入手を容易にし、今後一層進展するデジタル社会に市民の皆さんが対応できることを目指してまいります。

次に「公園整備」についてであります。

公園は、地域住民の憩いの場となるだけでなく、災害時の避難場所としての役割も担っているものでありますが、人口減少・少子高齢化に伴う利用率の低下や、施設の老朽化といった課題に対し、より魅力的で持続可能な施設とすることを目指し、次の2点について推進してまいります。

一点目は、限られた資源を有効に活用し公園機能を長期的に維持する目的で、石炭の歴史村公園、平和運動公園、滝の上公園などの維持管理や改修等の経費の縮減と平準化を図るため、当該施設の健全度や危険度等を調査し、施設の長寿命化に関する方針や、経費縮減効果をまとめる「公園施設等長寿命化計画」を策定します。

二点目は「南清水沢地区における公園の整備」です。当該地区における公園整備は従前より市民の皆様からの要望が多かったものでありますが、令和4年度に策定した「夕張市緑の基本計画」に基づき、多世代交流やレクリエーション機能に加え防災機能も備えた公園の整備を検討してまいります。

次に「新庁舎の整備」についてであります。

令和4年度から2ヶ年に渡り、夕張市内外の様々な分野の方々から、貴重なご意見をいただき、昨年、「新庁舎建設基本計画」を策定しました。

新しい庁舎の建設にあたっては、市民の皆様にとってより便利で質の高い行政サービスを提供する場となるよう、窓口業務の効率化

やデジタルの導入など検討を進めてまいります。

あわせて、災害発生時には、市民の皆様の安全を最優先に確保し、災害対策本部としての機能強化を図るため、新庁舎における新しい防災体制の構築を検討してまいります。

さらに、まちづくりの中核として、周辺の公園との連携を図り、市民の皆様が気軽に集まれるような空間を生み出すことで、まちのにぎわい創出を目指します。

今後は、この基本計画をもとに具体的な検討をすすめ、その内容を皆様にお伝えしながら、より良い新庁舎の実現に向けて進めてまいります。

次に、「市道、橋梁の維持」についてであります。

まず、市道の維持管理については、日々の道路確認により補修対応しており、昨年は、鹿の谷常盤線や南清水沢清水ヶ丘住宅線の補修を実施いたしました。今後も至急なものは可及的速やかに、そうでないものは優先順位をつけながら鋭意対応してまいります。

また、冬期間の除雪については、近年各地で発生する突発的な豪雪が本市に発生した場合においても、住民生活への影響を最小限とするよう、除雪体制の維持・確保に努めてまいります。

さらに道路の付属施設である橋梁については、各橋5年に1度の詳細な点検を実施し、その結果をもとに利用状況等を踏まえて「夕張市橋梁長寿命化修繕計画」を改定しながら清水沢橋の架替工事や清水橋などを補修対応してまいりました。

しかし、20年後には市で管理している全79橋の内、約8割(62橋)が建設後50年を経過する高齢化橋梁となること、また全橋梁を現在の品質で維持していくには、修繕費が年2億円程度必要となることから、今後策定予定の総合計画にあわせ、住民利用頻度を考

慮し、補修が優先されるものを選定し、その管理方法（維持、廃止及び集約化・撤去の手法）について、市道とともに検討してまいります。

次に「廃棄物処理」についてでありますが、

埋立処分地施設に搬入されるごみの量は、本市の人口が減少しているのにもかかわらず減ってはいません。

施設に搬入される一般ごみに資源物が混入していることが要因の一つと推測しておりますが、分別のルールが守られていないことは、検討を始めたごみの広域処理など、持続可能な廃棄物処理体制の構築に向けた検討にも影響を与えかねないことから、令和7年度においては、特に、一般ごみと資源物の分別方法の周知徹底、啓発に努め、資源化率の向上とごみの減量化につなげてまいります。

## 2 より良い教育環境を目指して

次により良い教育環境を目指した施策について申し上げます。

まず、本市の子どもたちの「確かな学力の定着と向上」についてでありますが、

わかる喜びを実感する授業づくり、主体的に学習に取り組む態度の育成など、小中一貫の教育活動の充実を通し、学びの質を向上させ、確かな学力を身に付ける教育を推進します。

そのため、学習用端末の更新、授業支援ツールの導入など、ICT機器の更なる効果的な活用を図り「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現に努め、知識・技能の習得や思考力・判断

力・表現力を伸ばす授業づくりを推進します。

また、タブレット端末を活用した「ゆうばりサポートオンライン塾」の利用促進や学習支援アプリによる家庭学習等の充実に努め、自ら学びに向かう力や確かな学力のより一層の定着と向上を目指します。

次に「子ども版あつやトークの更なる推進」であります。

先行き不透明で複雑化、多様化するこれからの社会を逞しく生き抜く力を身に付けて欲しいとの思いから、令和6年2月にゆうばり小学校、同年7月と11月には夕張中学校で子どもたちとの対話を実現し、その考えに驚き、感心し、大きな収穫を得たと考えております。

これからも、夕張が大好きな子どもたちと一緒に夕張の未来を考え、語り合い、触れ合える機会を増やし、課題を解決する“ちから”やコミュニケーション能力の一層の向上を目指します。

「まちづくりは、人づくり」であります。将来を担う子どもたちの育成は、大人に課せられた極めて重要な使命と心得え、今後も夕張独自の教育環境づくりを推進してまいります。

次に、「夕張高校魅力化事業の推進」についてであります。

本市の最高学府である夕張高校は、地域の活力の源泉であり、その存続は将来の夕張に大きな影響を与える存在と考えており、「夕張高校魅力化事業」を市の主要施策と位置付け、これまで公設塾の設置やチャレンジ補助など、夕張高校で挑戦する生徒を後押しする取組を進めてまいりました。

令和6年度中に高校魅力化コーディネーターを2名体制としたうえで、令和7年度からは、専門家のサポートも受け推進体制を強

固にしたうえで、更に高校との連携を密にし、夕張高校ならではの総合的な探究の時間づくりなど、夕張高校の更なる魅力向上に取り組んでまいります。

また、令和5年6月に夕張高校の全国募集が認められたことから、学校側と地域みらい留学の合同説明会に参加するなど全国に向けた募集活動を行ったことにより、令和6年4月に市外から初めて生徒が入学、公設寮での受け入れを始めました。本年4月からは市外から更に生徒が入学してくる予定と伺っております。市外からの生徒受入れは、夕張高校の入学者を増加させるとともに、地元から進学する生徒にとっても新しい人間関係を築く非常に良い機会であると捉えており、今後も拡充してまいりたいと考えております。

このような施策を通じ、地元から夕張高校に進学する生徒も含めて、夕張高校に通う生徒やそのご家族に、夕張高校を選んでよかったと思っていただけるよう、今後も地域一体となって夕張高校魅力化事業を推進してまいります。

### **3 いつまでも健やかに生きることを目指して**

次に「健康寿命日本一への取組推進」に関する施策について述べさせていただきます。

令和6年度は、健康増進計画『健康ゆうばり21（第2次）』、夕張市自殺対策計画（第2期）、第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に基づき取組を進めてまいりました。

具体的には『高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施』を開始し、高血圧ハイリスク者に対する医療専門職の家庭訪問等による状

況確認や保健指導、さらに様々な場面で対象者へのフレイルチェックや啓発活動を行ったところです。

また、市民のがん死亡率が高いことから、がん検診項目に新たに前立腺がん検査、胃がんの原因となるヘリコバクター・ピロリ菌検査等を加え、市民の新たな受診につなげたところです。

7年度の新しい取組としては、若年層に肥満や高血圧などの生活習慣病予備軍が多くみられることから、自営業など職場で健診を受ける機会がなく、且つ20～39歳までの若年層を対象とした市民に、健診機会を新たに提供し早期からの予防対策を行うことで健康寿命延伸につなげていきたい、と考えております。

## 4 市内経済の賑わいを目指して

次に、市内経済の活性化に関する施策であります、

まず 「将来に向けた夕張メロン生産の基盤づくり」について、本市の地域経済を支える基幹産業である農業、その基幹品目である「夕張メロン」は、生産者の高齢化や雇用労働力の不足などが課題となっている中、多様な担い手や人材の確保・定着、農業生産基盤の整備や優良農地の確保などに向け、生産者、農業関係機関と三位一体となって農業振興施策を推進しているところです。

令和7年度は第14次夕張市農業振興計画の最終年度であり、引き続き、農業経営を担う人材の確保や誰にとっても働きやすい環境の整備に努める考えであり、まずは市内若手農業者との意見交換から現状の課題・改善点を探り、関係者と情報共有を図ったうえで方向性を定めてまいりたい、と考えております。

また、十三哩二の沢川排水路の改修など農地の防災・減災を図る取組なども行ってまいります。

このような取組を通して、世界に冠たるブランドとして確立された「夕張メロン」を安定的に生産できるような基盤づくりを進めてまいります。

次に「市内商工業の活性化」についてでありますが、

後継者・担い手不足による事業者の閉業や物価高騰の影響による消費の低迷が続いております。これらの課題に対応するため、商工会議所と連携し市内商工業者と協力しながら、物価高騰による生活への下支えを行うため、プレミアムチケット事業を継続し、地域経済の活性化を図ってまいります。また、商工業の発展と密接に関係する地域のコミュニティや賑わいを創出できる企画を実施してまいります。

担い手・人材不足の関係については、市内事業者の担い手・人材不足を解消し幅広い年代の雇用が叶うよう、雇用対策総合支援事業を実施し、商工会議所と連携した支援体制の構築を図っていくとともに、市としても創業支援、資格取得への支援も引き続き実施してまいります。

企業誘致については、新規立地企業に対する誘致に効果的となる支援策を検討するほか、遊休地となっている事業用地においては、所有企業からの情報を収集した事業用地データベースの活用を継続し、積極的なマッチングができる体制を強化してまいります。

## 5 財政の再建から新しい時代を目指して

次に、財政の再建から新しい時代を目指すための施策について申し上げます。

本市の財政再建は、再生振替特例債を着実に償還することが肝要ですが、令和6年度分の償還を終えたことで残額が約50億円となり、あと2年で償還を終えるというところまでまいりました。

令和7年度においても引き続き着実に再生振替特例債の償還を行うとともに、財政再建後の財政運営を確実なものとするべく、財政収支の推計を適時行い、今後の財政運営を見据え、財政規律遵守を徹底しながら、一步ずつ財政再建の締めくくりに向けて歩みを進めてまいります。

その取組として、まず「財源確保のためのふるさと納税推進」についてであります、

夕張市の「ふるさと納税」は、平成19年に制定した「夕張まちづくり寄附条例」に基づき、全国の皆様から寄せられた志のある寄附金であり、その寄附金を「幸福の黄色いハンカチ基金」に積み立て、今後の地域振興に役立てていくものであります。

地元の特産品である「夕張メロン」を返礼品の主力商品としながら、夕張市農協をはじめ多くの地元事業者の皆様などに連携協力をいただいていることに感謝申し上げます。

地域の再生という将来を見据えた様々な事業の貴重な財源となる「ふるさと納税」の確保には、今後更なる取組が必要となります。

令和7年度においては、これまで進めてきた返礼品開発支援などを継続しながら、ワンストップ特例申請のオンラインでの受け付けを可能にするとともに、新たにポータルサイトを追加いたします。

夕張市の地域再生に向けた取組を全国の皆様に丁寧に説明するとともに、地元の魅力ある商品を開発して効果的にPRすることで、

更なるご支援をいただけるように取り組んでまいります。

次に「市の新しい指針である総合計画策定の本格着手」であります  
すが、

再生振替特例債の償還が令和８年度末で完了することで、財政再  
建を最優先としてきた夕張市は新しい段階を迎えることになりま  
す。

私は２期目の市政を始める所信表明において、「まちづくり、産  
業、教育、福祉などを包含した総合的な計画を策定し、新しい市の  
指針にしたい」と述べたところであり、令和６年度においては市の  
個別計画の洗い出しとチェック、懸案事項のローリングや他自治体  
の総合計画の研究などの準備作業を行ってまいりました。

令和７年度は、２か年にわたる計画策定作業の初年度と位置づけ、  
まずは市民アンケートの実施と内容精査、懸案事項を含めた具体的  
施策の検討などに取り組んでまいります。

これまで様々な施策を述べてまいりましたが、この施策を具体的  
に実行に移していくのは市の職員であります。一方、ここ数年の国  
内情勢に鑑みると、ほぼ全ての産業において人手不足が顕著となっ  
ているとともに公務員離れが急速に進んでおり、本市においても職  
員の採用が容易ではない状況となっております。

引き続き、情報収集に努めるとともに、採用試験の時期、選考の  
方法、PRの手法等様々な検討を行い、市の将来を担っていく人材  
の確保に努めてまいります。

あわせて、再生振替特例債償還完了を見据え、現在５％削減とな  
っている給料の削減解消など職員待遇の改善に向け、国、北海道と  
の協議を進めてまいります。

また、職員のモチベーションを高め、それを維持していくため、従前の派遣研修やオンライン研修を推進するとともに、令和7年度については職員の管理・育成を担う管理職を対象とした研修を重点的に行い、その効果を庁内全体に波及させたいと考えております。

さらに、DX、デジタル技術を活用した、業務の効率化と市民の利便性を高めるための手法について検討してまいります。

## 令和7年度予算編成にあたって

令和7年度の予算編成について申し上げます。

平成29年3月に総務大臣より同意を得た「財政再生計画の抜本的見直し」後、9年目にあたる予算編成にあたっては、限られた財源の中で、引き続き経費の全般について適正化を図り、着実に財政再建を推進するとともに、国の進める施策や近年の物価高騰等に対応しつつ、地域の再生に向けた効果的な政策展開を図る観点からとりまとめを行い、財政再生計画の変更を行ったうえで、予算に計上したところであります。

その結果、令和7年度の一般会計予算規模は、変更前の財政再生計画を12億円程度上回る104億488万8千円となったところであります。

一般会計予算に計上した事務事業のうち、主なものについて申し上げます。

まず、財政再建後の安心と希望のまちづくりのための経費として、

- ・(仮称) 夕張市総合計画策定のための経費
  - ・都市公園の再編整備に係る経費
  - ・りすた及び体育施設の予約をデジタル化する経費
- などを計上したところであります。

次に、安全安心な市民生活に向けた経費としまして、

- ・高齢者向けスマホ教室の実施のための経費
  - ・公共交通を南空知圏域で守る仕組みのための経費
  - ・拠点複合施設りすたの無線LAN環境改善のための経費
  - ・葬斎苑の今後を検討するための施設劣化診断の経費
- などを計上したところであります。

次に、持続可能な経済の体制づくりの経費としまして、

これまで取組んできた、メロン生産や市内商工業者への支援策に加えて、

- ・雇用対策総合窓口の設置に係る経費
- などを計上したところであります。

次に、子育てと教育環境の充実のための経費としまして、

- ・小中学生の学習に欠かせないタブレット端末を更新する経費
  - ・文化スポーツセンターの照明設備改善に係る経費
  - ・1か月児健康診査の公費負担に係る経費
  - ・不妊治療等の助成に係る経費
- などを計上したところであります。

次に、健康寿命日本一へ向けた経費としまして、

- ・病気の重症化防止のため若年者層の集団健診を実施するための

## 経費

- ・帯状疱疹ワクチン定期接種に係る経費  
などを計上したところであります。

次に、特別会計について申し上げます。

各特別会計につきましては、それぞれの制度に基づく事業経費を、収支の均衡が図られるよう財源を考慮しながら、予算編成を行ったところであります。

また、水道事業会計及び公共下水道事業会計につきましては、厳しい経営状況が続きますが、持続可能な事業運営に向けて、経費削減や収納対策の徹底を図りながら、施設の適切な維持管理に努めてまいります。

## むすびに

以上、令和7年度市政執行方針について申し上げます。

私の2期目の任期も残すところ2年となりました。

本任期中に市長として行ってきた様々な施策を成果として「収穫」し、市民皆様にお返しすることができるよう、令和7年度においても皆様の声を聴き、丁寧な説明を行いながら事業に邁進してまいります。

また、先に述べましたが、再生振替特例債償還完了まであと2年を残すのみとなり、財政再生団体脱却後を視野に入れ、その準備を進める段階となりました。

公共施設の抜本的な修繕など、財政の再建を優先するために先延

ばしにしていた事業にも着手する必要がある一方、財政再生団体であった夕張市であるからこそ、二度とそのような事態にならないよう厳格な財政運営も、これまで同様に求められるところであり、そのことを改めて皆様にお約束し、令和7年度市政執行方針の結びといたします。

